

### 森林の保護

現在、森林が減少している。「世界森林資源評価」によると、世界の森林面積は一九九〇年の四十一・二八億ヘクタールから、二〇一五年には三十九・九億ヘクタールに減少した。この二十五年間において減少した一・二九億ヘクタールの森林面積は南アフリカの国土面積に匹敵する。

また、「森林における生物多様性の保全及び持続可能な利用の推進方策」のレポートによれば、生物多様性の損失の速度は年々悪化しており、絶滅のスピードは一年間に四万種ともいわれている。国際自然保護連合（IUCN）のレッドリストの基準で調査された結果によれば、調査対象とされた四万百六十八種の内、現在一万六千百十八種が絶滅のおそれがあり、哺乳類の四分の一、鳥類の八分の一、両生類の三分の一、針葉樹の四分の一が危機的な状況にあるとされている。

さらに、それらが、森林減少と密接に関連している。過去三百年間に、地球上の森林地帯は約四十%縮小した。二十五か国において森林が完全に消滅し、別の二十九か国においては九十%以上が消滅したことが大きな要因といわれている。これらの報告が示すように、森林消失と、森林での生物多様性の危機は進んでいる。

このような森林の減少を食い止めるために私たちに何ができるのか。その一つが割り

表1 世界の森林面積の推移(1990-2015年)

年	森林面積 (千ha)	期間	面積 (千ha)	増減率 (%)
1990	4,128,269			
2000	4,055,602	1990-2000	-7,267	-0.18
2005	4,032,743	2000-2005	-4,572	-0.11
2010	4,015,673	2005-2010	-3,414	-0.08
2015	3,999,134	2010-2015	-3,308	-0.08

国際連合食糧農業機関「世界森林資源評価(FRA)2015-世界の森林はどのように変化しているか-(概要)(第2版)」より

箸を使うことをやめることだと思う。

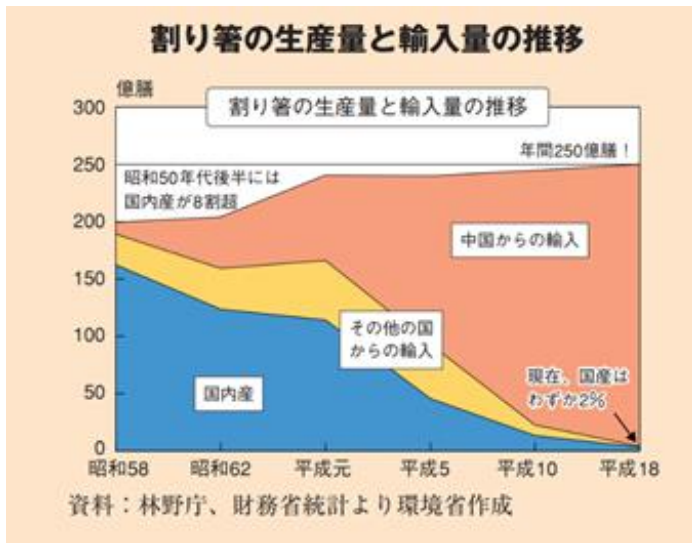
割り箸を作るために多くの木が伐採されている。日本では割り箸を使う習慣があり、「地球温暖化白書」によれば、現在、日本国内では年間二五〇億膳（木造住宅二万軒分）もの割り箸が使い捨てされているとのことだ。これを節約するだけでも、森林の減少はかなり食い止められる。

しかし、さらに調べていくと、国内で生産される割り箸の原料のうち九十七％は輸入材、さらには輸入量の九十九％が中国産だということがわかった。したがって、国産間伐材を用いて生産することで、国産材利用による森林整備が進み、輸入に頼らない資源活用が可能になる。そうすることで、森林が健康な状態に保たれ、豊かな森を存続させることができる。

ただし、森林の破壊は、伐採だけに限らず、大きな面積のものは火災による可能性が高いが、持続可能な森林経営の施策のもとでも、間伐、択伐、火災、病虫害、牧畜などや気候変動といったあらゆる悪影響によって続いてはいる。

このように考えると、地球規模での森林破壊の一端は、私たちの割り箸の使用が影響していると考えられる。しかし、それは、伐採方式などの経済的な理由によるものが大きいいため、国内産の間伐材を使ったものを使えば、森林減少を食い止めることができるはずである。

以上のことから、割り箸の使用を全くやめるのではなく、森林伐採につながる割り箸を使うのをやめることが大切だといえる。



環境省「平成20年版 環境／循環型社会白書」より